

集落営農を推進し、地域の農業振興へ

(五條市農業委員会)

担い手への
農地利用の
集積・集約化

遊休農地の
発生防止・
解消

新規参入の
促進

その他(農業
委員会の体
制強化等)

1 地区の特徴・状況、課題

五條市は、古くより南和地域の要衝として、また、一時期は南朝の本拠地として発展した奈良県の南部に位置する中山間地域です。

明治維新の際には、天誅組が挙兵するなど歴史ロマン満載ですが、奈良県全体にロマンが満載なので、あまり目立ちません。

地域の特色として、五條市北部(旧五條市)地域では水稻の栽培が盛んであり、五條市南部(旧西吉野村)では柿と梨の栽培を行っています。

特に柿の栽培では生産量日本一を誇り、奈良県の柿の8割を五條市で生産しています。

近年、人口の減少や獣害、後継者不足に直面しており、担い手の減少・耕作放棄地の増加のなかで次世代の農業者に農業を引き継いでゆくことが難しくなっています。

特に中山間地域では条件の悪い農地が多く、維持に多大な労力を要します。



2 課題解決に向けた活動(農地利用の最適化の推進の取組と工夫)

中山間地域特有の条件(個々の農地の面積が小さい、傾斜がきつい等)を克服するための活動
農地中間管理機構を活用し、集落営農化を推進するとともに支援策を活用して地域の農地の圃場整備を進め、条件のよい農地を作り、次代の担い手を育成する。

地域への農地中間管理機構の浸透を促進

担当区域を設定し、農業委員と最適化推進委員がペアとなり集落営農の話し合いに積極的に参加

五條市

3 活動(取組と工夫)の結果

平成31年3月、丹原地区で集落営農組織「丹生の里」発足、参加農家数32軒 農地集積面積8ha
圃場整備完了予定令和6年頃